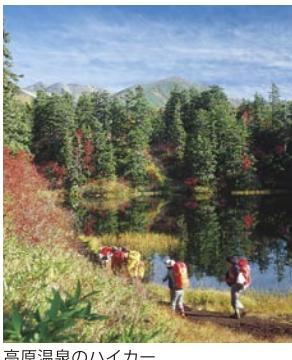


## 高原温泉・沼めぐり

高根ヶ原の下に広がる森林内には、多くの小さな池沼がある。高原温泉を出発点として沼を巡るトレッキングコースは、秋の紅葉の時期には特に人気が高い。

この時期はマイカー規制をしているので事前の確認が必要。高原温泉までは層雲峠からバスがある。歩道入り口にあるヒグマ情報センターで、必ずレクチャーを受けてから出発しよう。ヒグマと遭遇する危険があるときは、歩道が閉鎖されることもある。



高原温泉のハイカー



## 全山を染め上げる紅葉

大雪山の紅葉は早く、9月半ばを過ぎる頃に高山帯からはじまる。ウラシマツツジやチングルマなどの小さな植物が燃えるような赤に色づくのだ。

紅葉は急ぎ足に山を下り、やがて森林帯にはいると、ナナカマド、ダケカンバ、エゾイタヤ、カツラなどの木々が、赤や橙や黄に染まり、全山を艶やかな錦で飾る。雪がすべてを覆い尽くす直前の、植物たちの饗宴である。高原温泉周辺の紅葉は特に鮮やかである。



駆けおりる大雪山の秋

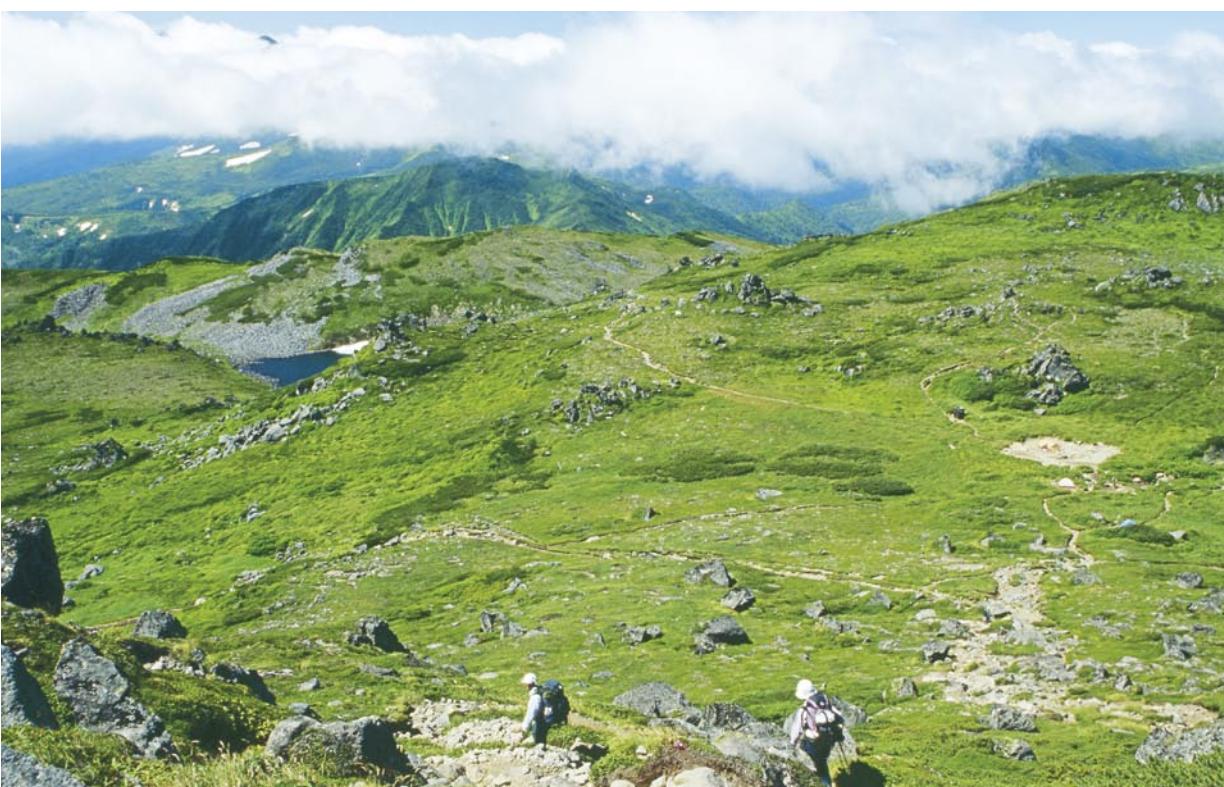
## トムラウシ山周辺

大雪山の中央火口より南、高根ヶ原からトムラウシ山にかけての区域は、この公園でも、最も「カムイミンタラ」の名にふさわしいエリアである。広大な台地、見渡す限りのお花畠、各所に見られる周氷河地形など、天上的な世界が展開する。

このエリアは日帰り登山が困難で、避難小屋を利用するかテント持参で行動するしかない。十勝連峰などを含めた大雪山地域には、日本アルプスにあるような設備の整った山小屋はない。黒岳石室と白雲岳避難小屋は夏季のみ管理人がいるが、そのほかの忠別岳、ヒサゴ沼などの避難小屋はすべて無人である。また、キャンプは指定地以外は禁止されているので、登山に当たっては、各地のビジターセンター等に問い合わせて最新の情報を得たうえで、慎重な計画を立てるとよい。主なルートは無雪期なら技術的にむずかしいコースではないが、距離が長く、上級者向きである。



沼ノ原からトムラウシ山へ



トムラウシ山の縦走路

### Column

#### 北海道の氷河の痕跡

北海道の氷河地形としては、大雪山系の南方にある日高山脈のカール（小規模の氷河が作った半円形の深い谷）がよく知られている。日高山脈より標高の高い大雪山にも各所にカール状の地形があり、モレーン（氷河堆石）のような堆積物はあるが、それが本当にカールであるかどうかは、いろいろな議論があって、すべての研究者が認めるには至っていない。それは、現在の山体を作った大雪山の火山活動が、氷河が発達した最終氷期よりも後、より温暖な時期まで続いていたと考えられているからであり、爆発火口がカールに似た地形になることも一つの理由である。



ポンチワタイのお花畠